



速報版:

TOPICS

## 第56回 建築士会全国大会「しまね大会」

平成 25年 10月 19日 (土) 主催:(公社)日本建築士会連合会 共催:中四国建築士会ブロック会 主管:(一社)島根県建築士会



左/写真1 大会式典。日本建築士会連合会・三井所清典会長による挨拶  
上/写真2 記念講演会

『神集う國 しまね すべてを引き寄せ 縁結ぶ ～「ものづくり」の原点を見つめる～』をテーマに、折しも神在月の島根の地に全国から3,000名を超える建築士が集い、くにびきメッセにて「しまね大会」が開催されました。

## 大会式典

式典は国土交通省審議官、島根県知事、松江市長、大韓建築士協会会長および関係団体の方など多くの来賓のご出席を賜り、島根を代表する伝統芸能の一つである「石見神楽」をオープニングアトラクションとして始まりました。その後、島根を紹介するビデオが上映され、品川俊二大会実行委員長の開会宣言、島根県建築士会・足立正智会長の開催挨拶と続き、国歌斉唱、物故者追悼の後、日本建築士会連合会・三井所清典会長の主催者挨拶がありました(写真1)。

表彰式では、連合会長賞表彰者112名を代表して島根県建築士会の矢田和弘氏が、伝統的技能者表彰者では21名を代表して同じく島根県の長岡房男氏、連合会賞受賞者を代表して優秀賞を受賞された東京建築士

会の米田浩二氏が表彰され、最後に実践活動表彰も行われました。

続いて来賓祝辞、来賓紹介、祝電披露、全国の各建築士会紹介が行われました。大会アピールでは、日本建築士会連合会・佐藤東亜男副会長から次のとおり宣言がありました。

- 地域の木造技術の伝承・発展をめざす
- 弛まぬ自己研鑽に励み、地域住民・自治体とのさらなる連帯・強化を図る
- インターネットによる情報開示と免許証明書への統合等のための建築士法改正を推進する
- 建築士の業務環境を改善し、社会的地位の向上をめざす

最後に、大会旗の引き継ぎが行われ、次期開催地の福島県建築士会・松隈仁吉会長をはじめ140名の福島県建築士会のメンバーが登壇してPRが行われ、式典は閉会しました。

(池田眞治/島根県建築士会)

## 記念講演会

今回の大会テーマである「ものづくり」から、自動車という「ものづくり」で中四

国において唯一の自動車メーカー・マツダで、代表的なスポーツカーであるロードスターなどの開発に長年携わられた、現山口東京理科大学教授・貴島孝雄氏を講師に迎え、「感性を重視したものづくり“マツダロードスターと建築”～使うことへの愛着と癒しを求めて～」と題した講演をしていただきました(写真2)。

講演は「人間の進化は石器時代のものづくりから始まっている」とはじまり、「マツダでは初代社長が残した『10杯の珈琲より1杯の酒』という言葉がある。上辺の話ではなく本音で話し合う社風を大切にしている」という話をしていただきました。そして、「感性」という日本人独特の感覚を大切に「感性重視のものづくり」を、どのようにロードスターの開発で実践したのかをエピソードを交えながら話されました。ロードスターは「人馬一体」をコンセプトに開発され、いかにドライバーと車が一体化できるか、完成までいかに緻密な検討がなされたのかを紹介していただきました。

感性重視のものづくりにより、人馬一体というコンセプトを実現し、楽しさを“カタチ”にしたロードスターは、発売以来世界中で愛され、時を経た今では、所有者や愛好家の集まりであるオーナーズ・ミーティング

が定期的に世界中で開催されるほど愛される車となっているとの話をされました。

最後に『ものづくり』は単に物をつくることだけではなく、『ヒトが集い癒される“コトづくり”』である」と、人に焦点をあてた感性重視のものづくり社会にしていくことの重要性を話され、「何をつくってもよいが、“人が集い・結び・幸せになる、ものづくりが大切である”」の言葉で講演を締めくくられました。

われわれの建築という「ものづくり」に通じる、大切にすべきキーワードを多数もらうことができたと感じました。

(金坂浩史/島根県建築士会)

## フォーラム

### 島根会セッション

#### ● まちづくりフォーラム

松江の文化(レキシ)と新しい視点……“緑”

女子高生、まちづくり活動家、行政、それぞれの視点から発表していただきました。ディスカッションでは観光コンテストに出場して地域に新たな提案をしている女子高生の意見もあり、また、松江にある文化遺産や歴史的建造物について、県外からの視点で活発な意見が出ました。まちづくりについて再認識したフォーラムでした。

(相坂 治/島根県建築士会)

#### ● 木造フォーラム

フォーラムⅠ：伝統木造継承のために

建築家・六車誠二氏が自ら提唱、実践されている「若杉活用軸組構法」について話をしていただき、木造研究者・腰原幹夫氏からは高層木造や多層木造など新たな木造建築の可能性について話をしていただきました。

フォーラムⅡ：これからの木造建築の可能性

フォーラムⅠでの課題を、建築家、木造研究者、製材者、工務店などさまざまな立場

のコメントーターにディスカッションしていただき、参加者も一緒になって議論しました。

(宇田川孝治/島根県建築士会)

### 実践活動交流セッション

#### ● 交流セッション①

木造の可能性、そして建築士会の未来を考えよう

朝早くから224名もの建築士が参加し、第1部は各都道府県青年委員会のブロック代表として7事例・案の「建築士会PRアイデア」について、全体発表とディスカッションが開催されました。第2部には連合会副会長・衛藤照夫氏による講演が行われ、木造による耐火建築物について最新技術情報を学ぶ「先を見据えた」有意義なセッションとなりました。

(安田和人/連合会青年委員会)

#### ● 交流セッション②

高齢者・障がい者の住宅改修において建築士としてできること

全国女性建築士連絡協議会では、20年間継続的に地域活動の情報交換を行い、平成24年度には全国の高齢者・障がい者住宅改修の実態把握のアンケートをまとめました。今回、その中から異なる環境で取り組みを実践する3名の事例紹介があり、早急に取り組むべき在宅介護を踏まえた今後の課題について意見交換を行いました。

(島田マリ子/連合会女性委員会)

#### ● 交流セッション③

木造フォーラム分科会「木造建築とBIM—その効果と可能性—」

BIMは現在、住宅から最新建築物まであらゆる形態の建築物に利用されていますが、木造建築のBIMによるデザイン手法は発展途上です。今回は、その木造建築に関するBIMの設計手法について、午前はCADメーカーのBIMの紹介、午後はBIM利用者からの発表が行われました。

(山田 隆/島根県建築士会)

### ● 第1回全国ヘリテージマネージャー大会 地域の歴史的建造物とヘリテージマネージャーネットワーク

—災害時における社会貢献—

4人の方から各地での歴史的建造物保存に関する活動報告があり、これに対してネットワーク協議会運営委員長・後藤治氏から、「災害時はもちろん、平時からネットワークが機能していることが必要だ」と講評がありました。最後に大会宣言を提唱して終了しました(写真3)。

(梅田賀干/島根県建築士会)

## 松江まちめぐり

大会当日午前中、歴史と自然の豊かな松江市内を4コースに分かれ散策しました。①コースでは松江市立女子高等学校国際文化観光科の生徒さんと一緒に、松江の今後のまちづくりの在り方などについて語り合いながら散策しました(写真4)。

①コース：松江の歴史と街づくり

②コース：堀川遊覧と松江の茶室めぐり

③コース：パワースポットを訪ねて

④コース：宍道湖遊覧と牡丹と高麗人参の里「大根島」を訪ねて

## エクスカーション

今回は5コースを設定しました。Aコースの出雲大社を中心とするコースでは予想をはるかに上回る200名以上の参加申込みをいただき、特別参拝ができるか心配しましたが、関係者のご協力により予定通り実施することができました。実施人数に満たないコースも一部ありましたが、すべてのコースを実施することができました。

(池田眞治/島根県建築士会)

※詳細は2014年2月号に掲載します。

左/写真3 第1回  
全国ヘリテージマネージャー大会  
右/写真4 松江まちめぐり出発風景

